

# 10月・月例一泊研修旅行

## 高知・牧野植物園

小島 武雄

10月10日(火)、「高知県立牧野植物園・桂浜・大歩危・祖谷のかずら橋の自然に触れる」研修旅行は、晴天に恵まれ朝8時、大和西大寺駅を28名でいつもの生駒交通サロンバスにて出発しました。淡路ハイウェイオアシスPAまで、会長挨拶、時間当てクイズ、長時間のバス移動ですので、頭の体操とんちクイズ、高知県のビデオなどを見て時間を忘れ、吉野川沿いのレストランに到着。昼食は川魚の名物料理、ただ、昼頃には真夏並みの気温になり、熱い暑い鍋昼食。



その後大歩危溪流沿いで休憩、吉野川の溪流と木々の緑に癒され、かずら橋へ向かい到着は13時33分。秘境と云われたかずら橋も今は観光地でした。しかし、かずら橋を渡るとゆらゆらスリル満

点、橋の下にはキラキラまばゆい清流が。シュウカイドウの咲く道を歩き、すぐの琵琶の滝はマイナスイオンいっぱい、やっと生き返りました。水しぶきのかかる中ワイワイと記念撮影後、次の杉の大杉まで曲がりくねった国道を走ること1時間15分。この杉は日本一とか、幹回り20m、高さ60mの天然記念物、高すぎて実感わからず次へ。高知市内では、おどろおどろしい「絵金蔵」を見てのち、高木酒造で待望の試飲タイム。気分も高まり、本日の宿舎「国民宿舎桂浜荘」に予定時間ぴったり到着。



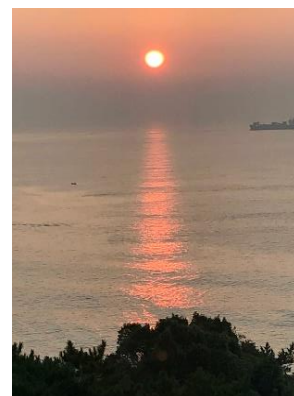
太平洋の一望できる温泉で休憩後、宴会場で懇親会を行いました。翌日は、早朝から思い思いに美しい五色砂の桂浜散策。太平洋を見つめる龍馬像を仰いで胸を高鳴らせ、奈良では絶対見ることができない雄大な海の日出を楽しみ、朝食はコンロで炙った小魚を美味しくいただきました。

いよいよ待望の牧野富太郎植物園。とても広い園内は、出迎えてくれた水草博士の学芸員の山ノ内さんの優しい説明で、植物園ゆかりの固有植物が集められた、生き生きとした土佐の植物生態園には、びっしりと細かく書き込まれた銘板が、それこそ草木一本一本ごとに付けられていて驚く。何を聞いても即座に解りやすく説明してくださることに嬉しくなりました。牧野富太郎先生の、ヒツジグサ(スイレン)が、羊の刻(午後2時頃)



に開くことを、実際にいつ咲くのか確認するため、先生は京都の巨椋池で朝から舟に乗って熱中症になりかけたことなどを話していただきました。約2時間の観察でしたが、広い園内は半分ぐらいしか回れません。季節外れの暑さで体には応えましたが、満足感あり、是非また来たいと思う植物園でした。

途中のバスの中では、各ポイントごとに到着前に説明がなされ、十分な予備知識を得られたのが良かった。時間が足りなくなり残念ながら高知城は車窓のみになりました。バスは、途中の休憩ポイント、脇町(うだつの町)藍染の集散地で、伝統的な町並み保存地区を散策のあと帰路へ。バス中では、いつものビンゴゲームで、皆様の手づくり品を手に大盛り上がりで、奈良西大寺駅18時40分に到着。強行軍でしたが、程よい疲れと満足感でした。



研修旅行に参加の皆様ありがとうございました。